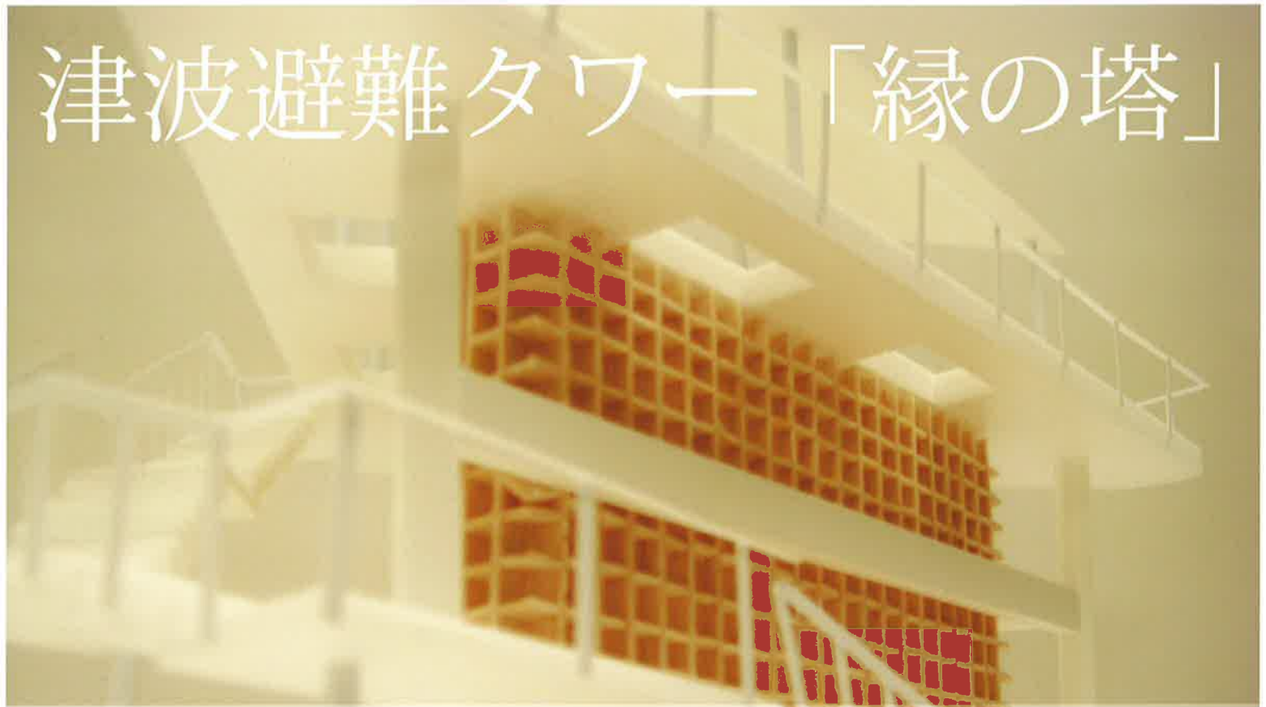
津波避難タワー「縁の塔」



以前から存在する避難タワーは無機質な鉄骨だけでできているほか普段は階段にドアがあり施錠されているなど、人が寄り付かない空間となっている。

住宅地に建つ普段使いできる避難タワーとして、

- 縁側のように普段から近隣住民が集える場所としてつくる。
- 緊急時には素早く非難できるものとする。
- 緑にあふれた空間とする。

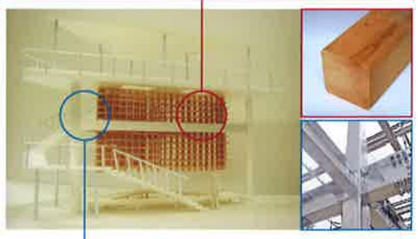
■配置図

配置図 1/400

住宅地に建てる場合、基本は長方形の敷地になると思われるので、三角形の平面形とすることで敷地内に空き地を設け、そこを緑化する。

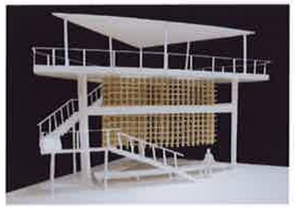
■避難タワー構造

格子状の棚は木製で、津波襲来時には流されてもいいものとする。



避難階を支える部分は鉄骨造でつくる。

■平面図・断面図



●機能

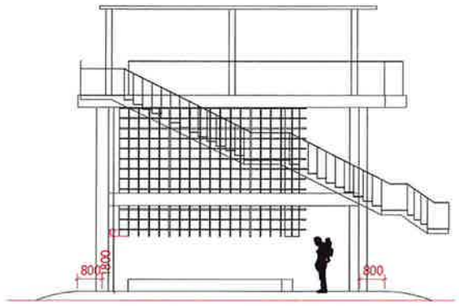
1階には木製の縁側空間を設ける。

従来の避難タワーでは、人が寄り付かない空間となっていたが、この場所が近隣住民の交流の場となる。

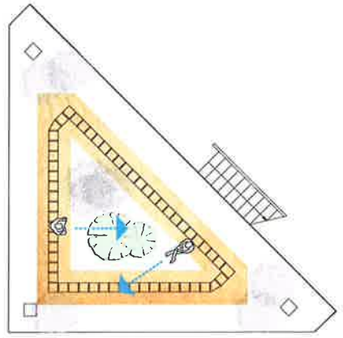
また、三角形にすることで、向かいあう位置に座っても目線は逸れるので、お互い顔見知り程度でも座りやすく、そこから交流が始まる。

●効果

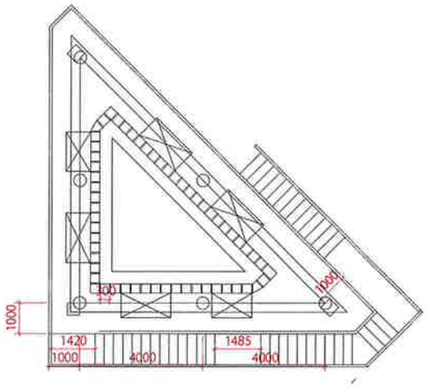
格子状の棚を避難階から垂らすことで避難階のスラブの下に格子で囲われた内と外の中間のような空間を創り出す。



立面図 1/200



1階平面図 1/200

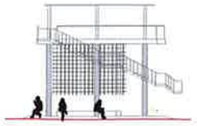


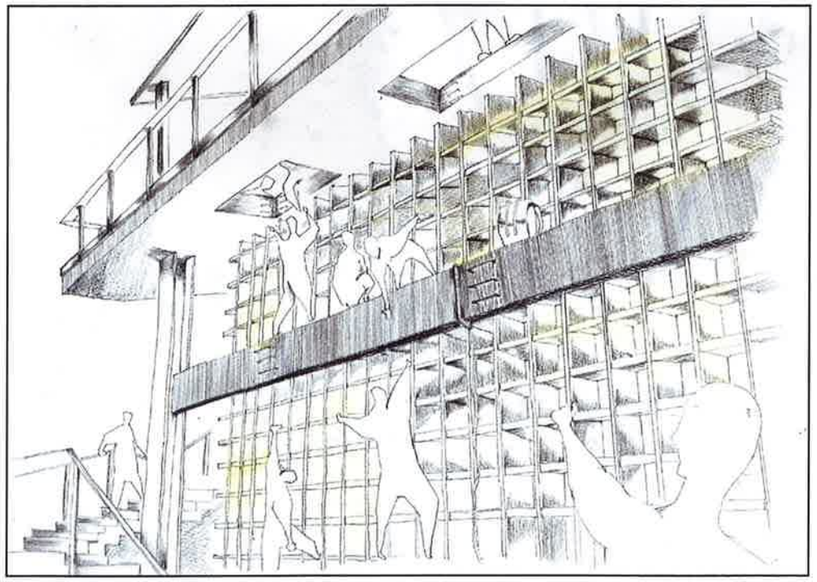
避難階平面図 1/200

■避難タワーがもつ３つの機能

1. 縁側としての機能

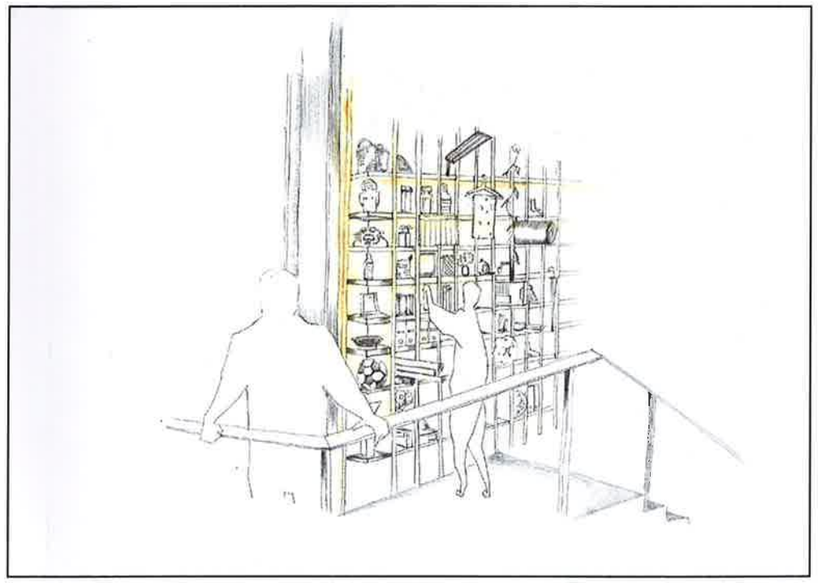
町中に建つ避難タワーは格子で曖昧に覆われ、近隣住民のコミュニティスペースとして、縁側のような空間となる。

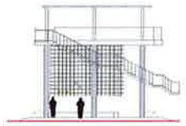




2. 非常時のはしごとしての機能

非常時には備え付けの格子棚を使って避難階に上ることができる。



3. 棚としての機能

格子は非常食を置いておけるほか、ここを利用する人が本や花瓶など思い思いのものを置いておくことができる。